

A-1 学校研究

(1) 研究主題

『生きる力』をはぐくむ授業づくり
—「読解力」を核とした授業を目指して—

(2) 主題設定の理由

本校では、「心身共に健康で創造に富み、人間性豊かな生徒を育成する」ことを教育目標とし、生徒の「生きる力」の育成を重点に、この10年ほど研究を進めてきている。近年は特に、「確かな学力」としての「生きる力」の育成をめざし、生徒たちがこれまで学び、身につけてきた力や経験を全て使って考える場面を、授業の中に位置づける工夫をしてきた。

しかし、全国学力調査や県の基礎学力調査の結果からは、本校の生徒は「物事を関連づけて考える」ことや「根拠を明らかにして考え、自分の意見を文章にまとめる」ことなどに苦手意識を持っていることが明らかになってきており、対応が求められている。

そのため、日々の授業における基礎・基本の習得を大切にすると共に、学んだことを組み合わせ考えたり、根拠をもとに自分の考えを述べる場面を授業の中に積極的に位置づけ、それによって「生きる力」をはぐくみたいと考え上記の主題を設定した。

(3) 研究仮説

「生きる力」には、日々変化する実生活の状況に合わせて、身につけた知識や技能を選択・加工・組み合わせることにより、目の前の課題を解決するという側面がある。この力を支える「思考力」「判断力」「表現力」等を「活用力」ととらえ、この「活用力」をはぐくむために、全ての教科で「読解力 (Reading Literacy)」を視点とした授業に取り組むことが有効であると考えた。

(4) 研究の基本的な考え方

「活用力」の向上を目的としたとき、その具体的手だてを各教科で考えなければならないが、そのためには全ての教科で共通の視点を持つ必要がある。その共通の視点として、前に挙げた「読解力」に着目し、研究を進めることとした。

なお、ここで言う「読解力」とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義される、いわゆる「PISA 型読解力 (Reading Literacy)」のことである。

この「読解力」に関しては、文部科学省が平成 17 年 12 月に、「読解力向上に関する指導資料」を発表しており、指導のねらいとして以下の「7つの能力の育成」を挙げている。

ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること

- (ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成
- (イ) 評価しながら読む能力の育成
- (ウ) 課題に即応した読む能力の育成

イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること

- (ア) テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

- (イ) 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成
- ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること
- (ア) 多様なテキストに対応した読む能力の育成
- (イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

この「7つの能力」の育成が、各教科で授業を構築する際の柱となる。

なお、ここで述べられている「テキスト」には、「物語文・論説文・記録文」などのような文章だけではなく、「データを視覚的に表現した図・グラフ、表・マトリックス、技術的な説明などの図、地図」なども含まれている。さらに、絵画や音楽、自然事象等も「テキスト」ととらえることができると考えられる。したがって、「読解力」の向上は国語科が中心となる部分も多いが、国語科以外の教科でも取り組むことができるものであり、各教科での工夫が求められるところである。

(5) 研究の方針

以上のことをふまえ、次の5点を研究の方針とした。

- ①各教科における基礎・基本の定着を確実にすることで、生徒一人一人にわかる喜びを感じさせ、やる気の向上をはかるとともに、自信を持たせる。
- ②テキストの内容や形式などの「解釈」や「理解・評価」することで「読む力」を高める取り組みを各教科で工夫する。
- ③テキストの内容を「要約」「紹介」したり、自分の考えを書かせることで、「書く力」を高める取り組みを各教科で工夫する。
- ④「朝読書」の推進や「幅広い読み物」に触れる機会を工夫し、様々な文章や資料に触れる機会を設ける。
- ⑤「授業参観カード」や他教科の授業参観などを通して、教職員の授業改善を図る。

(6) 研究の方法

- ①各教科で読解力向上プログラムにある「7つの能力の育成」の中で、どの能力を、どの単元（教材）で育成できるのか、年間指導計画を基に検討する。
- ②その単元（教材）で、「読解力」育成のためにどのような授業ができるのか、具体案を検討し、実践してみる。
- ③実践事例についての情報を教科部会で交換し、課題を検討する。
- ④各自、年1回は研究授業に取り組むこととし、研究授業の前には指導案検討会を行う。
- ⑤授業参観等、他教科との交流を積極的に行う。